

次世代学校支援事業 ガイドブック



文部科学省「新時代の学びにおける先端技術導入実証研究事業」
(エビデンスに基づいた学校教育の改善に向けた実証事業)

および

総務省「スマートスクール・プラットフォーム実証事業」
における調査報告



もくじ

はじめに	
用語	2
本書について	3
次世代学校支援事業について	
事業の目的・概要	4
第1章 次世代の学びで活用するシステム	
前提となる学校のICT環境について	6
利用する校務系システム「C4th、C4th ポータブル」	7
利用する学習系システム①「やるKey」	9
利用する学習系システム②「リアテンドント」	10
利用する学習系システム③「心の天気」	11
スマートスクールプラットフォーム全体像	12
第2章 次世代の学校を支援する「ダッシュボード」	
ダッシュボードの機能①「児童生徒ボード」	14
ダッシュボードの機能②「学級ボード」	16
ダッシュボードの機能③「個別の教育支援計画・個別の指導計画」	20
第3章 ICTを活用する学校の様子	
データを活用する教員の1日	22
データを活用する教員	25
第4章 各実証校における実践と効果	
実証校 滝川小学校	26
実証校 天王寺小学校	28
実証校 阿倍野小学校	30
実証校 大和川中学校	32
実証校 旭陽中学校	34
第5章 ICT活用のポイント	
導入におけるポイント	36
活用のSTEP	37
おわりに	
有識者の声	38

はじめに

用語

校務系データ	児童生徒の成績、出欠席およびその理由、健康診断結果、指導要録など学校が保有する情報資産のうち、それらの情報を学校・学級の管理運営、学習指導、生徒指導、生活指導等に活用することを想定しており、かつ、当該情報に児童生徒がアクセスすることが想定されていない情報のこと。 例：出席簿・成績情報・指導記録・保健室利用記録のデータなど
学習系データ	児童生徒のワークシート、作品など、学校が保有する情報資産のうち、それらの情報を学校における教育活動において活用することを想定しており、かつ当該情報に教員および児童生徒がアクセスすることが想定されている情報のこと。 例：児童生徒が行った学習ドリル・単元／定期テスト結果・児童生徒の心の天気・児童生徒向けアンケートのデータなど
校務系システム	校務系ネットワーク、校務系サーバおよび校務用端末から構成される校務系データを取り扱うシステム。なお、保護者との緊急時のメール連絡や学校ホームページ等インターネット接続を前提とした校務で利用されるシステムのことを校務外部接続系システムと呼ぶ。
学習系システム	学習系ネットワーク、学習系サーバ、学習者用端末および指導者用端末から構成される学習系データを取り扱うシステム。
プラットフォーム	システムを活用するための機器やソフトウェアから構成される ICT 基盤。 本書では、次世代学校支援を実現するための ICT 環境全般を指す。
ダッシュボード	データを可視化・集約化を実現するためのシステム。データ可視化システムとも呼ぶ。 本書では、教育データを可視化・集約化する「児童生徒ボード」、「学級ボード」、「個別の教育支援計画・指導計画」から構成されるシステムを指す。
ゲートウェイサーバ	異なるネットワークを相互に接続し、安心・安全にサービス提供するための機器。
SAML 認証	SAML (Security Assertion Markup Language) 認証の略称。 異なるインターネットドメイン間でユーザー認証を行うための標準規格を活用した認証を指す。
REST API	Web システムを外部から利用するためのプログラムの呼び出し規約 (API) の一つ。 校務系データと学習系データの連携に活用。
閾値 (しきいち)	アラート表示における基準となる値。 設定した値以上でアラートが表示される。
タグ	データを分類するためのラベル。本書では、日常所見情報を分類するラベルを意味する。
串刺し採点	学級における児童生徒全員のテストの解答内容を設問ごとに一覧表示し、採点すること。
ライフログ	児童生徒の生活に関わるデータ
スタディログ	児童生徒の学習履歴データ
アシストログ	教員の指導記録データ
SC	スクールカウンセラー
SSW	スクールソーシャルワーカー

本書について

大 阪市の学校現場には綿々と築かれた優れた教育実践があります。新時代の学びはその知見を活かすテクノロジーを活用した学校運営・学級経営が伴っていなければなりません。

本実証事業にあたり、初年度は、実証校に47回のヒアリングを行いました。校長・教頭・教務主任・教員・養護教諭・栄養教諭という様々な職種におけるデータ活用への「期待や要望」を収集しました。その数は111件のにのぼり、これらを「学力・体力の向上」「安心・安全な学校」などのテーマと、「学習理解度の可視化」「生活状況の把握」など11個のニーズに仕訳分類し検討を重ね、「ダッシュボード(データ可視化システム)」の構築とその活用実証に取り組むこととしました。

本事業では、学校にシステムとデータを提供するだけでなく、ダッシュボードの活用方法や利便性、効果についてヒアリングし、86件の要望をいただき7回のシステムリリースを重ね、ユーザ(教員)目線でダッシュボードを構築しました。

3年間という短い実証期間ではありましたが、その中でも多種多様な校務・学習系データが蓄積され、それらに教員の分析や知見を重ね合わせることで、児童生徒をより多面的・多角的に把握することができました。

次世代の学校の情報化として、これまで日常的に蓄積されてきた校務系データと新たに収集する学習系データを連携させ「ダッシュボード」に一元化することを通して、これらデータが“活用するデータ”へと進化することを実証しました。「ダッシュボード」の活用により、児童生徒の状況の見極めと対応は、教員の知識と経験の差に依存せず、正確かつ素早く実行できることも実証されました。

本ガイドブックに紹介された実証校の「データを活用した教育の質の向上に向けた実践事例(グッドプラクティス)」や活用エピソードが実証校以外にも展開され、さらに多くの実践事例を生み出すサイクルへとつながることに期待します。

刻々と変化する子供のデータは変容と成長を映し出します。教員がデータに向き合い個に対応することで、公正に個別最適化された学びの実現が図られ、安心安全な学級・学校づくりが進められます。次世代の学校支援事業は、テクノロジーの活用により旧来の学校の運営基盤を変え、新時代の学びを牽引するものとなります。このことは、多種多様な環境にありながらも、全国の教育委員会(小学校・中学校)への普及という、文部科学省の実証事業の最終目標に資するものであると考えます。本書では、実証校における実証研究で得られた効果や、具体的な活用事例、実証校の教員の声をまとめて紹介しています。これからの学校教育に求められるICT活用、教育データの利活用について理解を深めていただき、学校運営及び教育実践の更なる充実に役立てていただければ幸いです。3年間にわたる文部科学省・総務省の実証事業のまとめにあたり、ご協力いただいた皆様方に深く感謝申し上げます。

令和2年3月 大阪市教育委員会



次世代学校支援事業について —事業の目的・概要—

事業の目的

学校の有益なデータ（エビデンス）の見える化により、 教育の質の向上へ

本 事業では、「校務支援システム」と「学習系システム」を安全かつ有効的に連携させ、これらのシステムを日常的に使うことによっておのずと蓄積される校務や学習にかかるデータを集約し、学校の状況や児童生徒の学びを一元化し、可視化する新システム「ダッシュボード」を導入しました。児童生徒自らの学習の振り返りや、教員の指導力の向上、学級・学校運営の改善や教育の質の向上を図る手段として、その活用方法やシステム要件（情報セキュリティ対策を含む）について検証するための実証研究を実施しました。

「ダッシュボード」の活用により、児童生徒、教員、管理職のそれぞれにとって有益なデータ（エビデンス）の見える化を実現し、学級・学校運営の深化充実を目指すとともに、学校に新しい価値を提供し、教員や管理職の利便性を高めることを目的としています。

事業のステップ

平成 29 年度
(1 年目)

- 目標の精緻化
- システム開発

学校の課題・ニーズを踏まえ、目標を精緻化（業務整理、利用するデータ確定、分析観点の決定）。具体的な業務ルールを整合し、システム仕様の概要設計を行う。

平成 30 年度
(2 年目)

- データ活用の基盤構築
- 学校における実利用開始

実証校にシステムを実装し、学校現場とともに価値のあるシステムを検討。システム仕様の詳細設計およびデータ収集・蓄積・活用のための基盤構築、学習系クラウド連携の仕様策定を行う。

令和元年度
(3 年目)

- 標準仕様の詳細／展開
- サービス利用範囲の拡大

児童生徒へのきめ細やかな指導に活かす「教育領域での活用」および学校運営改善のための「学校支援領域での活用」を通して、標準的に導入するための仕様を再検証。

実証事業で取り組む内容

テーマ	詳細
1 学力・体力の向上	学習サイクルの定量評価やその結果に基づく教員の行動変革を通じて学力向上を実現する
2 安心・安全な学校	授業満足度や日々の充実度と校務系データを組み合わせ、教員の即時対応力の向上および個別指導の強化を実現する
3 学校運営の充実	校務系、学習系データを合わせ、学校の現況や所属教職員の把握など管理職の学校運営の充実を図る

学校に提供する新しい価値

7つの有益なデータを組み合わせ、
教育現場に潜在する11個のニーズを満たした「ダッシュボード」



心の天気



11個の
ニーズ

1 学習理解度の可視化
(児童生徒自己評価・感想)

2 学習理解度の可視化
(デジタル教材)

3 学習結果の集約
(各種学力テスト)

4 児童生徒の学習・
生活状況把握・理解
(日常所見)

5 児童生徒の生活状況
把握・理解
(心の天気)

6 児童生徒の
生活状況把握・理解
(出欠状況)



教育の質の向上

学力・安心安全の向上

7 児童生徒の環境等
状況把握
(共有配慮事項)

8 児童生徒
個人別情報の集約
(個人・学級)

9 学習理解度の可視化
(学力向上)

10 児童生徒の学習・
生活状況把握・理解
(教員育成)

11 児童生徒の
生活状況把握・理解
(安心・安全)

7個の
データ

1 児童生徒感想データ

2 小学校単元仕上げ問題結果
中学校定期・単元テスト結果

3 大阪市小学校学力経年調査結果
大阪府中学校チャレンジテスト結果

4 発言・授業のようす、提出物、
ノート、作品などの教務必携データ

ダッシュボード



教育データ可視化システム

5 児童生徒の心の天気データ

6 児童生徒の出欠情報・
保健室利用情報ほか

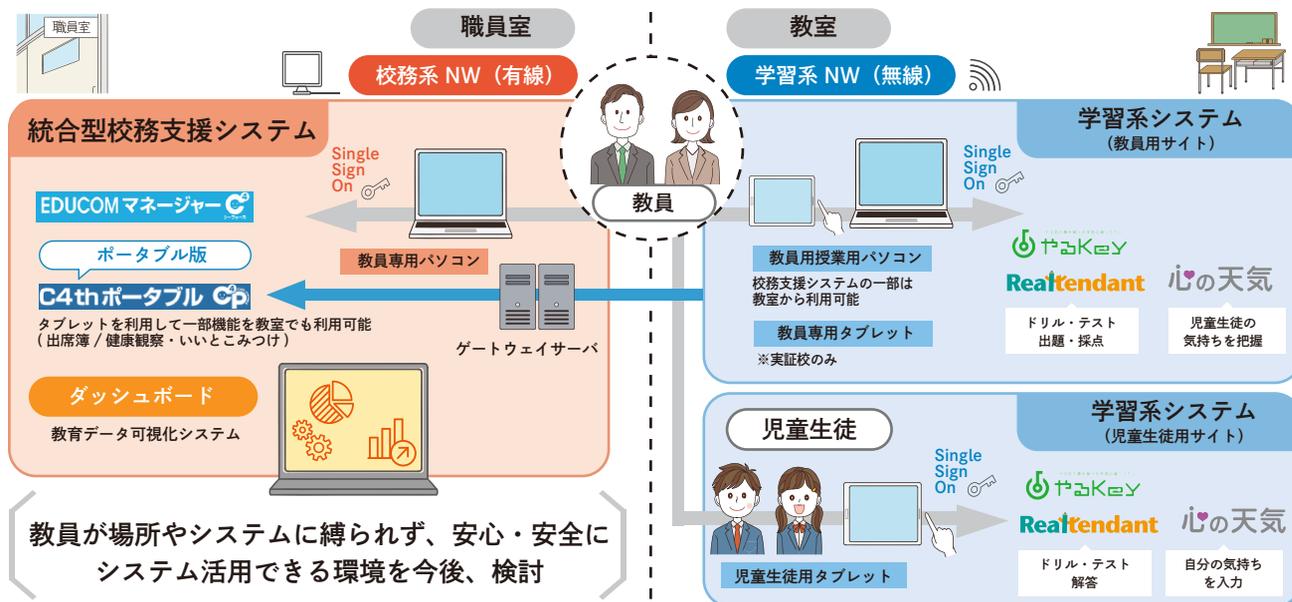
7 共有配慮事項

ダッシュボードとは、学力・安心安全の向上に必要な7つの有益なデータ(エビデンス)を一元化し、教育現場に潜在する11個のニーズを満たしたシステムです。学校において活用が進んでいる「統合型校務支援システム」(EDUCOM マネージャー C4th / C4th ポータブル)と、「学

習系システム」(心の天気/やるKey/リアテナント)をつなげ、それぞれから得られた有益なデータ(エビデンス)を見える化したものです。1つの画面に児童生徒、教員、管理職のそれぞれにとって有益な情報を一元化することにより情報活用の利便性を高めました。

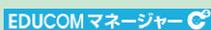
前提となる学校のICT環境について

デジタル化によって、つながる職員室と教室の情報



活用システム

EDUCOM マネージャー C4th



統合型校務支援システム

情報を一元管理し、共有・再利用することにより、校務の効率化、教育の質の向上を実現。

C4th ポータブル



統合型校務支援システムを教室からでも入力可能に教室から統合型校務支援システムの入力が可能に。タブレットを利用して子供たちの学習や活動の記録をリアルタイムに入力できます。

やるKey



努力を育てる 小学校向けデジタルドリルシステム

タブレットでドリル学習。児童自ら目標を設定し、学習の習慣化を促します。また、習熟度、がんばりを可視化し指導改善へつなげます。

Reattendant



学力定着を支援する中学校向けデジタルテストシステム

タブレットもしくは紙で実施したテスト結果をデジタル化することで、串刺し採点による教員の業務効率化を支援するだけでなく、蓄積されたデータから指導改善や生徒の変容を見取ることが可能。

心の天気



子供の心のシグナルをキャッチし、声掛けへつなげる

1日1回、児童生徒がその時の気持ちにもっとも近い天気マークを選んで入力。登録時の児童生徒のようすや日々の変化を教員が見取り、声掛けのきっかけにつなげることができます。

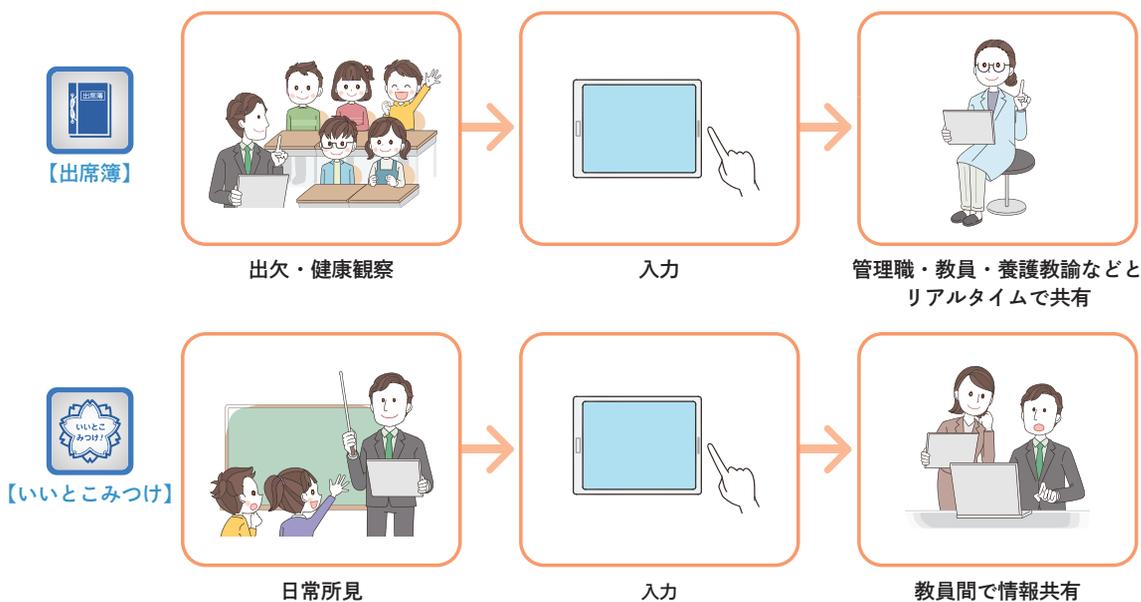
本事業では、統合型校務支援システムと3つの学習系システムを活用・連携。統合型校務支援システムとしては、学校において既に定着している「EDUCOM マネージャー C4th」および「C4th ポータブル」により教室からも活用。学習系システムとしてはデジタルドリル「やるKey」およびデジタルテスト「リアテンドラント」、児童生徒の気持ちの見取りに役立つ「心の天気」を活用しました。「EDUCOM マネージャー C4th」はこれまで職員室での利用に限られていましたが、「C4th ポータブル」を導入することにより、タブレットを使用して教室からでも校務(一部)の入力が可能になりました。場所を選ばず、学校のあらゆる場所からデータを入力、収集できるため、活用場所の自由度が高まり、業務効率化、児童生徒と向き合う時間

の創出ができるようになりました。また、リアルタイムに入力できることから、多面的な評価にもつなげることができます。すべての教員が児童生徒の生活のようすなどを入力、共有することにより、問題の早期発見、迅速な対応が図れるなど、様々な相乗効果も期待できます。入力場所が限定されないことでデータの蓄積が加速し、エビデンスの質の向上につなげることができます。さらに、学習系システム「やるKey」「リアテンドラント」「心の天気」は、児童生徒がタブレットを使って入力や学習を行い、データをリアルタイムに蓄積することができます。経年による学習記録の蓄積も加え、データ分析し、学習指導の改善や個別指導の充実に役立てることができます。

C4th、C4th ポータブル

タブレットを活用して教室からの情報入力を可能に

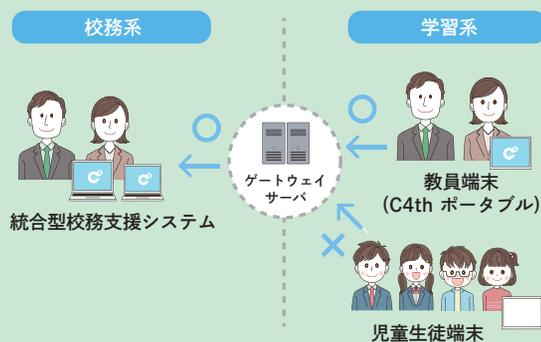
職員室・教室間で情報をつなぎ、職員の業務効率化



なにが可能になる？ 利用シーンとメリット

- ➡ 教室から統合型校務支援システムへ入力が可能
- ➡ 教員の見取りや気づきをその場で入力
- ➡ 全教職員でリアルタイムに情報共有が可能

これまで、職員室での入力に限られていた統合型校務支援システムの機能の一部が、専用のゲートウェイサーバを設置することにより、教室から安全に活用できるようになりました。タブレットを利用し、校内のどこからでも子供たちを見守りながら、出欠情報や活動記録を入力可能。リアルタイム接続により、すべての教員が同じデータをタイムラグなしに閲覧できます。



ゲートウェイサーバを利用して、教室からの安全な情報の入力をサポートします

C4th ポータブルの代表的な機能

出席簿・健康観察

出欠席情報をタブレットから簡単登録

児童生徒の出欠席情報をタブレットから簡単に入力。同時に統合型校務支援システムにリアルタイムに登録され、職員室で確認することができます。インフルエンザ流行時期には欠席者の状況をいち早く把握し、判断することができるなど、教室と職員室、保健室との情報共有が円滑になり、必要な対応を迅速にとることができます。



予め欠席理由がボタンで用意されているため、操作画面はすべて選択入力。複数の児童生徒を選択し、同じ内容を一括で登録できます

いいとこみつけ

子供たちのいいところを記録

授業中の子供たちのいいところを、教室ですぐに登録。定型文や「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」といったキーワードを組み合わせ、簡単に文章を作成することができます。テンプレートはカスタマイズ登録が可能で、教科ごとに様々な内容を登録できます。



発言があった児童生徒を複数選択し、テンプレートのキーワードを呼び出した画面。気づきを手早く入力できます

座席表管理

座席と入力画面が一致

普通教室や、理科室、美術室などの特別教室ごとに、また算数などの習熟度別授業を踏まえた座席表を登録できます。出欠・健康観察、日常所見、いいとこみつけなどの入力がスムーズになります。児童生徒の顔と名前、画面を一致させることができるので、視覚的な把握が可能に。担任外の教員でも児童生徒の理解促進がスムーズになります。さらに、タッチ操作で座席を変更できます。



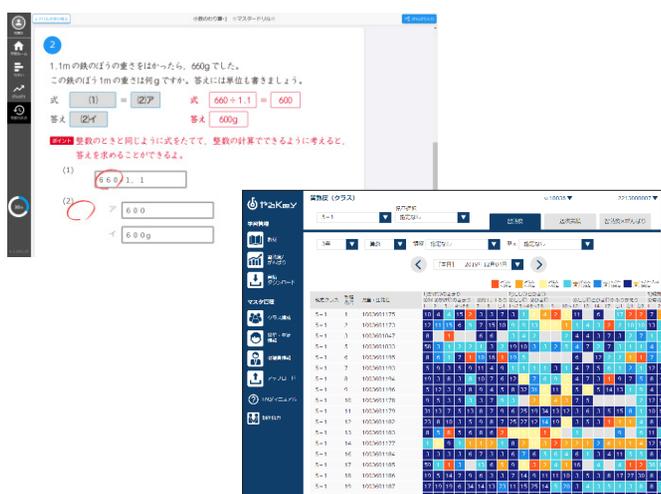
教科ごと、教室ごとに座席表を登録できます

利用する
学習系
システム

1

やるKey

やる気を引き出すデジタルドリル



タブレット上で解答した後は、すぐに自動採点して赤ペンで解説を表示。
ヒートマップでは学級の理解度を一覧表示で可視化できます

児童 一人一人の進行状況、理解度に合わせて最適な問題を自動出題するデジタルドリル。教員は解かせたい単元と項目を選択するだけで、児童のタブレットへドリルを自動配信。児童は目標時間と問題数を設定し、日々、朝学習や、授業、放課後などの時間にドリルに取り組みます。解答後、児童が「答え合わせ」のボタンを押すと、瞬時に自動採点。先生の採点の負担をぐっと減らします。採点と同時に、個々の得意やつまずきを発見し、その児童に合った、苦手を克服する問題や、さらに理解を深めるための問題を自動配信。苦手は克服へ、得意はより深い定着へと導きます。ヒートマップ表示では、児童一人一人の進行状況と理解度を色で表示。ドリル実施回数も数値として可視化されることで頑張りも可視化されます。学級全体の一覧表示もできるので、授業設計や指導の判断材料として役立ちます。

なにが可能になる？ 利用シーンとメリット

👉 目標達成を日々の習慣にできる

👉 個々のつまずきに対応

👉 児童の習熟度、がんばりを確認

ドリルに取り組むと「がんばりコイン」が獲得できたり、難易度に合わせてハンコやトロフィーがもらえるなど目に見えてうれしい工夫がたくさん。「もっと解きたい!」「次は何か?」と、児童のやる気を引き出し、学力向上につながります。児童自身で学びを振り返りながら問題を解くことで、学習の習慣化にもつながります。



児童はタブレット上で解答を入力。習熟度によって、キャラクターを育成できたり、達成するとトロフィーがもらえたりする仕掛けもあります



1章 次世代の学びで活用するシステム

2章 「次世代の学校を支援する」 「デジタルボード」

3章 ICTを活用する学校のようす

4章 各実証校における実践と効果

5章 ICT活用のポイント

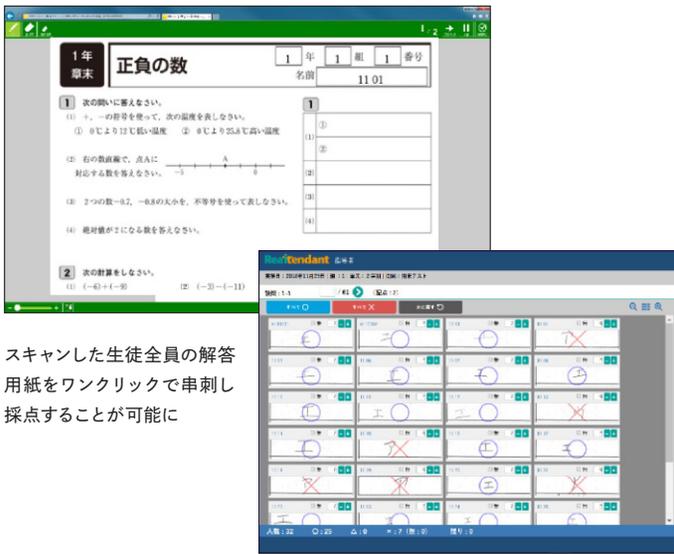
利用する
学習系
システム

②

リアテンドアント

学力の定着と指導改善を支援するデジタルテスト

Reatendant



スキャンした生徒全員の解答用紙をワンクリックで串刺し採点することが可能に

「タブレット」で実施するテストと従来からの「紙」でのテストの結果を合わせて、効率的にデータ化・集計でき、分析結果から生徒たちの学習の変容を見取り、個別指導や学級の指導に活かすことができる学習系システム。

システムには、教科書会社・副教材会社提供のテストが搭載されているほか、先生自身の自作テストを配信することも可能。紙によるテスト後は、解答後、スキャンしてパソコンに取り込めば、クリック操作で○×採点することができます。結果はスタディログをもとに様々な角度から分析。問題の妥当性や指導法を振り返ることもでき、授業改善や指導力向上に役立ちます。また、テスト採点・集計業務に対する時間が50%以上短縮されたケースも多く、教員業務の効率化に大きく役立てられています。

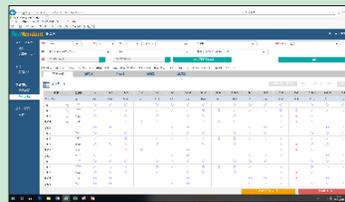
なにが可能になる？ 利用シーンとメリット

👉 テストはタブレットでも紙でも実施可能

👉 スタディログデータの集計・分析

👉 テストの結果を通知表の成績に反映できる「成績連携機能」

生徒のスタディログは「正誤一覧」「正答率」「得点推移グラフ」「領域別グラフ」「SP表」など様々な角度から分析。学級で一覧表示すれば理解度や間違え方のパターンなどが一目で確認でき、学級の状況を迅速に把握できます。ダッシュボードと連携したアラート機能もあり、個に応じた声掛けや復習指導も可能に。また、「成績連携機能」により、定期・単元テスト結果における観点ごとの素点を成績に反映することが可能です。



紙とタブレット双方からのテストの取り組み結果を、スタディログとして蓄積が可能

	得点率	単元・領域別得点率	観点別得点率
学年ごとの集計	学年と各クラスの平均得点率経年変化	単元・領域別の学年平均得点率	観点別の学年平均得点率
クラスごとの集計	学年と特定クラスの平均得点率経年変化	単元・領域別のクラス平均得点率	観点別のクラス平均得点率
生徒ごとの集計	クラスと生徒の平均得点率経年変化 +生徒の順位変動	単元・領域別の生徒得点率	観点別の生徒得点率

心の天気

子供の心のシグナルをキャッチし、声掛けへつなげる

心の天気



1日1回、児童生徒がそのときの気持ちにもっとも近い天気マークを選んで入力。
児童生徒の日々の心の変化を見取ることができ、声掛けのきっかけになります

子供たちの気持ちを見える化することで、子供たちからのメッセージをキャッチしやすくなり、個に応じた指導に役立てることができるシステムです。朝の会や終わりの会などに、タブレットを使用して児童生徒自身が「心の天気」を登録。“今の気持ち”を「晴れ」「曇り」「雨」「雷」の4つの天気の中から選びます。入力したデータは統合型校務支援システムに連携され、すべての教員がリアルタイムに確認できます。個人の気持ちを確認することももちろん、学級や学年の入力結果の一覧表示も可能。児童生徒一人一人を支援しやすくなるだけでなく、保護者と課題を共有したり、児童生徒自身が自分の生活を振り返る機会になるなど、様々な効果があります。

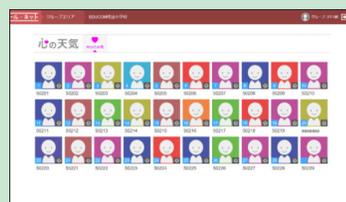
なにが可能になる？ 利用シーンとメリット

児童生徒の SOS 発信／受信

児童生徒への声掛けのきっかけに

担任だけでなく
管理職をはじめ全教員で共有

教員側のメニュー画面では、学級ごとに登録された心の天気の変容が確認可能。当日を含む直近 30 日間をカレンダー表示で確認することができます。この機能によって、児童生徒の心の変化を俯瞰して見ることで、学級全体の雰囲気客観視できます。また児童生徒への声掛けのきっかけにもつながります。



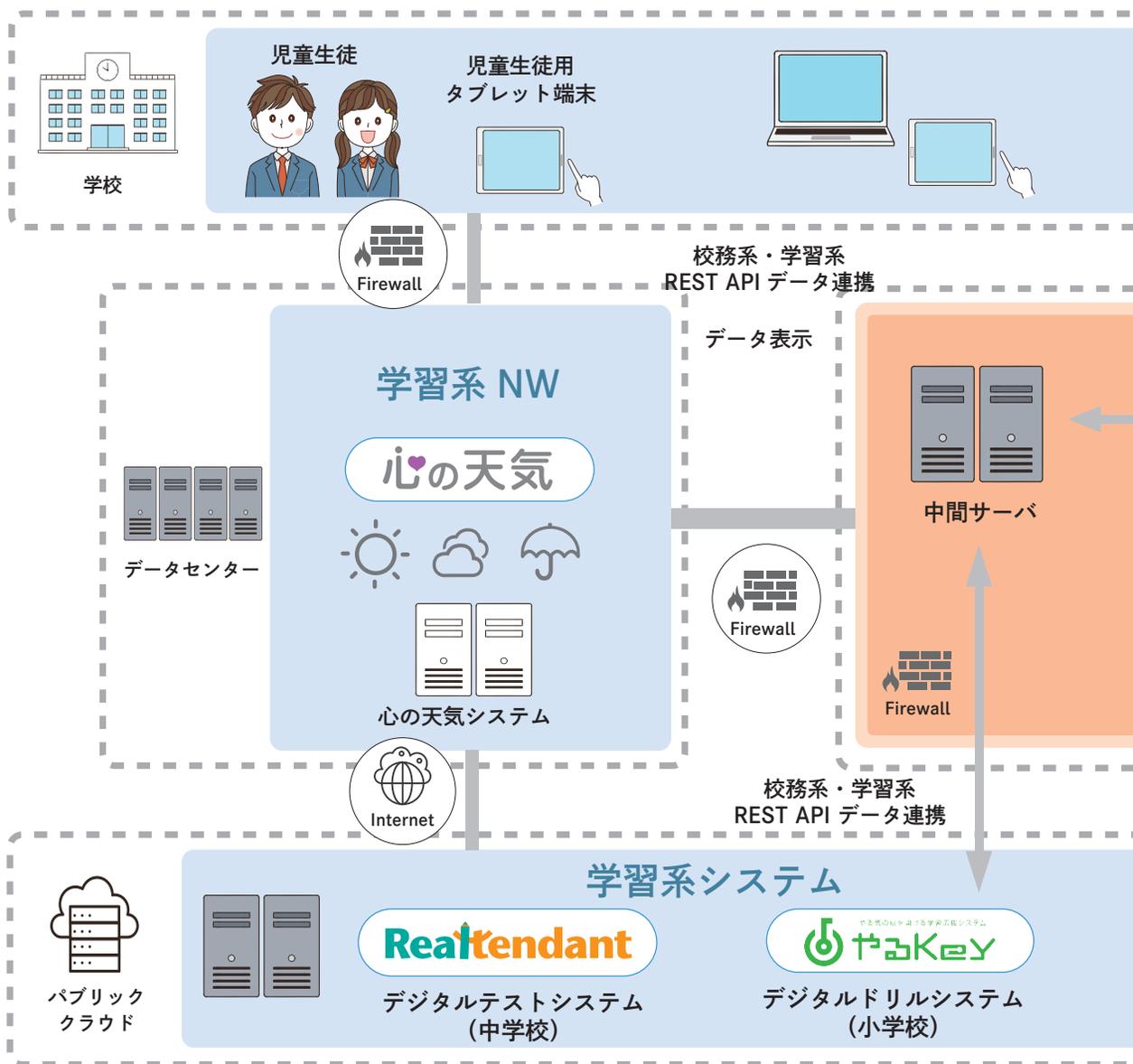
グループ登録機能により、学級の児童生徒一覧を表示した上で、順に登録することも可能です



スマートスクールプラットフォーム全体像

セキュリティを確保しながら校務系と学習系のデータ連携を実現

スマートスクールプラットフォーム全体像



次 世代の学びを支える「スマートスクールプラットフォーム」。教員はパソコン、タブレットなど複数の ICT 機器を駆使し、校務システムおよび各学習システムの教員サイトを活用し、データを蓄積。また、児童生徒は限られた ICT 機器を使い授業で学習システムを活用、データを蓄積していきます。REST API による校務系と学習系のデータ連携を実現するとともに、中間サーバで SAML 認

証による信頼性チェックを実装し、セキュリティを強化。場所を選ばず、安心・安全にシステム活用できる環境はさらなる効果を生みます。「ダッシュボード」では、児童生徒、教員、管理職のそれぞれにとって有益なデータ（エビデンス）の見える化を実現。学校に新しい価値を提供し、学校・学級経営の深化を図るとともに、教員や管理職の利便性を高めます。

第2章 次世代の学校を支援する「ダッシュボード」

ダッシュボードの機能① ー児童生徒ボードー

子供たち一人一人の校務および
学習系情報を集約可視化

学級ボード (詳細はP16~19)

4 5 6 7

児童生徒ボード

3年1組 | 16番 山本 太郎 | 学級ボード | 個別指導の記録

生活のようす

共有TOPIC: ※内科or外科orその他の登録率が13% (2/15日)
いいとこみつけなど: 先生に元気よく挨拶をしていました。

学習のようす

共有TOPIC: 授業中、集中できずクラスメイトの邪魔をしてしまう場面があったので注意した。

家庭のようす

1. TOPIC: 母親とケンカし、イライラしがち。

2. 基本情報: 【正式名】鈴木 太郎

3. 配慮事項: アトピーのお薬を服用しています。

出欠/健康観察

16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	1月30日(木)
遅	遅	休	休	遅	遅	遅	ず

29(78%) 3(8%) 2(5%) 3(8%)

保健室利用

- 2020年1月27日(月) 9:30~11:50 外科(擦過傷)
- 2020年1月21日(火) 10:30~11:50 内科(全身倦怠)
- 2019年12月16日(月) 11:00~14:10 内科(全身倦怠)

出欠/健康観察 (過去6か月間)

	9	10	11	12	1	2
病欠・事欠	0	0	0	0	1	0
出遅・遅退	0	0	0	0	0	0
遅刻・早退	1	0	0	0	1	0
体調不良(健康観察)	3	0	3	2	1	0
保健室利用	4	2	0	2	2	0
遅	2	17	4	11	14	0
遅	1	1	1	1	1	0
遅	12	1	1	1	0	0
遅	0	1	1	1	1	0

成績 (教科)

	3学年 2学期			
	国語	社会	算数	理科
観点別評価	AABBA	AABB	AABB	AABB
評定	3	2	2	3

1章 次世代の学びで活用するシステム

2章 「ダッシュボード」

3章 ICTを活用する学校のようす

4章 各実践と効果

5章 ICT活用のポイント

児童生徒の基本情報から日常所見、出欠、健康観察の情報、保健室の利用状況、「心の天気」の変化、「やるKey」や「リアテナド」のスタディログ、成績情報、「いいとこみつけ」による様々な子供たちのようすの記録にいたるまで、校務系・学習系データを集約・可視化。児童生徒1人につき1ページの画面で、こころ・からだ・学習理解などの状況を俯瞰して確認することができます。

児童生徒ボードには、児童生徒に対する配慮事項、保護者とのやりとり、教職員間での共有情報なども集約されており、すべての教員が入力・閲覧できます。気になる子供がいた場合はこのボードを開くこ

とで、多面的・多角的な分析が可能です。すべての教員が一人一人の子供を見守ることができるとともに、教員同士の経験や知見を出し合いながら、個に応じた指導、組織的な支援を的確かつ迅速に行えるようになります。

また、児童生徒ボードは、時期をさかのぼってデータを確認しながら子供の成長を確認することができるので、長期的な視点からの分析・対応が可能になります。ベテラン教員から若手教員へのフォローもしやすくなります。



個別の教育支援計画・個別の指導計画 (詳細は P20 ~ 21)

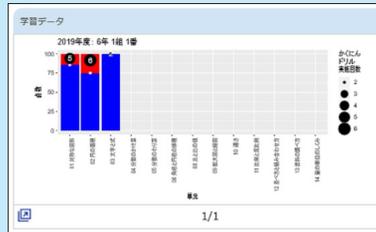
8

9

10

[学習データ]

▶小学校



デジタルドリルシステム「やるKey」における単元の仕上げ問題の初回および最新の正答率、ドリル実施回数をグラフで表示。

▶中学校



デジタルテストシステム「リアテナド」における定期テストおよび単元テストにおける得点率をグラフで表示。

①家庭のようす < TOPIC >

家庭のようすに関連した情報を新着順表示

②家庭のようす < 基本情報 >

生年月日、住所、保護者、続柄など

③家庭のようす < 配慮事項 >

薬の常用、アレルギーなど

④生活のようす < 共有 TOPIC / いいとこみつけなど >

生活面のアラート、日常所見、教務必携、共有配慮事項など

⑤生活のようす < 出欠・健康観察 >

「心の天気」データ、出欠・健康観察情報

[出欠 / 健康観察表示パターン]

病欠…病、事故欠…事、出席停止…停、忌引き…忌
遅刻…遅、早退…早、その他…ふ
遅刻 / 早退…遅早、遅刻 / その他…遅ふ、
その他 / 早退…ふ早 ※時系列表示
遅刻 / その他 / 早退…遅ふ早 ※時系列表示
※その他の場合は原因の頭文字を表示 (例:腹痛 (健康観察) = 「ふ」、頭痛 (健康観察) = 「ず」)

⑥生活のようす < 保健室利用 >

保健室利用日時、内容

⑦生活のようす < 出欠・健康観察 >

出欠・健康観察情報、「心の天気」データ
※過去6カ月の集計表示

⑧学習のようす < 共有 TOPIC / いいとこみつけなど >

学習面のアラート、日常所見、教務必携、共有配慮事項など

⑨学習のようす < 学習データ >

小学校:「やるKey」単元仕上げ問題結果
中学校:「リアテナド」単元・定期テスト結果

⑩学習のようす < 成績 >

教科別観点評価、評定

ダッシュボードの機能② ー学級ボードー

【クラスの様子 / タイムライン】学級における配慮事項、新着やアラートを日ごとで表示し、教員の気づきを促進

児童・生徒ボード (詳細はP14～15)

個別の教育支援計画・個別の指導計画 (詳細は P20～21)

3

学級ボード

3年1組 ▶ 児童生徒ボード ▶ 個別指導の記録

クラスの様子

1

基本情報

【担任】 なにわ 太郎
【副担任】 山田 花子
【特別支援】 ▶ 岩佐 春 ▶ 山本 太郎

2

配慮事項

- ▶ 岩佐 春
 - 個別の教育支援計画/個別の指導計画あり (2019年4月8日: なにわ 太郎)
 - ▶ 山本 太郎
 - アトピーのお薬を服用しています。(2019年6月14日: なにわ 太郎)
 - 個別の教育支援計画/個別の指導計画あり (2019年4月10日: なにわ 太郎)

タイムライン

2020年1月30日 (木)

出席簿 !

- ▶ 大田 西子 病欠欠席 (病欠欠席) ※3日連続で欠席 or 遅刻 or 早退
- ▶ 細田 ケンイチ 遅刻 (遅刻)
- ▶ 山本 太郎 健康観察 (ず 頭痛 (健康観察))

心の天気 !

- ▶ 西原 進 ⚡️🌧️の登録率が3% (1/30日)
- ▶ 細田 ケンイチ ☔️
- ▶ 山本 太郎 ⚡️🔥の登録率が30%増加 (67%-37%)

保健室利用 !

- ▶ 細田 ケンイチ 14:00~15:00 内科 (全身倦怠)
- ▶ 山本 太郎 ※内科or外科orその他の登録率が13% (2/15日)

共有TOPIC (生活)

- ▶ 南 友香 • 友人関係に悩みがある様子。(鈴木 慶介)

いいとこみつけなど (生活)

- ▶ 岩佐 春 • 下級生のめんどうをみてくれました。(山田 太郎)

共有TOPIC (学習)

- ▶ 山本 太郎 • 授業中、集中できずクラスメイトの邪魔をしてしまう場面があったので注意了。(なにわ 太郎)

いいとこみつけなど (学習)

- ▶ 奥村 東 • 学習ドリルを一生懸命取り組んでいた。(吉田 正二)

▼ 次の10日間を表示

前のクラス ◀ ▶ ▶ タイムライン ▶ 生活の様子 ▶ 学習の様子

生活の様子 (詳細はP18)

学習の様子 (詳細はP19)

1章 次世代の学びで活用するシステム

2章 「ダッシュボード」次世代の学校を支援する

3章 ICTを活用する学校の様子

4章 各実践校における実践と効果

5章 ICT活用のポイント

「学級ボード」では各学校が定めた閾値をもとにアラート表示。学級のようすや、今知っておくべき事項、すぐに対処が必要な事項などを1画面に表示します。学級の現状把握、問題やつまずきへの早期発見、管理職の指導・助言に役立てることが可能です。「タイムライン/クラスのように」「生活のようす」「学習のようす」の3項目で構成。「タイムライン/クラスのように」では、学級の基本情報、子供たちのようすの記録や共有事項など、その日の学級のようすを表示するほか、声掛けが必要な児童生徒を各学校が定めた閾値をもとに

アラート表示。

「生活のようす」は出席簿、心の天気、保健室利用、いいとこみつけの学級サマリ(集計情報)を表示。「学習のようす」には「やるKey」の単元仕上げ問題結果や満足度アンケート結果(小学校)、リアテンドント単元テスト結果、理解度アンケート結果(中学校)などの学習データの集計情報、学習における日常所見や成績情報なども表示されます。児童生徒ボードへの動線となり、問題やつまずきへの早期発見、管理職からの指導・助言や支援に活用できます。

アラート機能で設定した条件に合致した場合、
①マークや赤字表示でお知らせします。

[アラート機能]

現在の設定	
出席簿の設定	編集
連続3日以上欠席 or 遅刻 or 早退	
連続3日以上健康観察	
3週以上連続で特定の曜日に欠席 or 遅刻 or 早退	
3週以上連続で特定の曜日に健康観察	
過去90日間の欠席 or 遅刻 or 早退の割合が15%以上	
過去90日間の健康観察の割合が15%以上	
直近30日間とその前の30日間とを比較し、欠席 or 遅刻 or 早退の登録率の差が30%以上	
直近30日間とその前の30日間とを比較し、健康観察の登録率の差が30%以上	
心の天気の設定	編集
連続3日以上 ☁	
連続3日以上 ☀	
3週以上連続で特定の曜日に ☁	
3週以上連続で特定の曜日に ☀	
過去15日間の ☁ の割合が50%以上	
過去15日間の ☀ の割合が50%以上	
直近30日間とその前の30日間とを比較し、☁ の登録率の差が30%以上	
直近30日間とその前の30日間とを比較し、☀ の登録率の差が30%以上	
直近30日間とその前の30日間とを比較し、☁ の登録率の差が5%以下	
直近30日間とその前の30日間とを比較し、☀ の登録率の差が5%以下	
過去30日間の ☁ の割合が5%以下	
過去30日間の ☀ の割合が5%以下	
過去30日間の ☁ の割合が5%以下	
過去30日間の ☀ の割合が5%以下	
保健室利用の設定	編集
連続3日以上内科 or 外科 or その他	
3週以上連続で特定の曜日に内科 or 外科 or その他	
過去15日間の内科 or 外科 or その他の割合が10%以上	
直近30日間とその前の30日間とを比較し、内科 or 外科 or その他の登録率の差が10%以上	

条件を設定しておくことにより、 配慮すべき児童生徒を知らせてくれる

「児童生徒ボード」および「学級ボード」には、条件を予め設定しておくとその条件に合致した場合にお知らせしてくれる「アラート機能」が備わっています。たとえば、出席簿において「連続〇日以上欠席」、心の天気において「過去〇日間の晴れの割合が〇〇%以下」、保健室利用において「〇週以上連続で〇曜日に利用」など、項目ごとに細かな設定が可能です。アラートを細かく設定しておくことで、問題やつまずきの早期発見への気づきを教員に促します。

① クラスのようす<基本情報>

担任、特別支援学級に在籍している児童生徒、転入・編入情報、転退学情報などを表示

② クラスのようす<配慮事項>

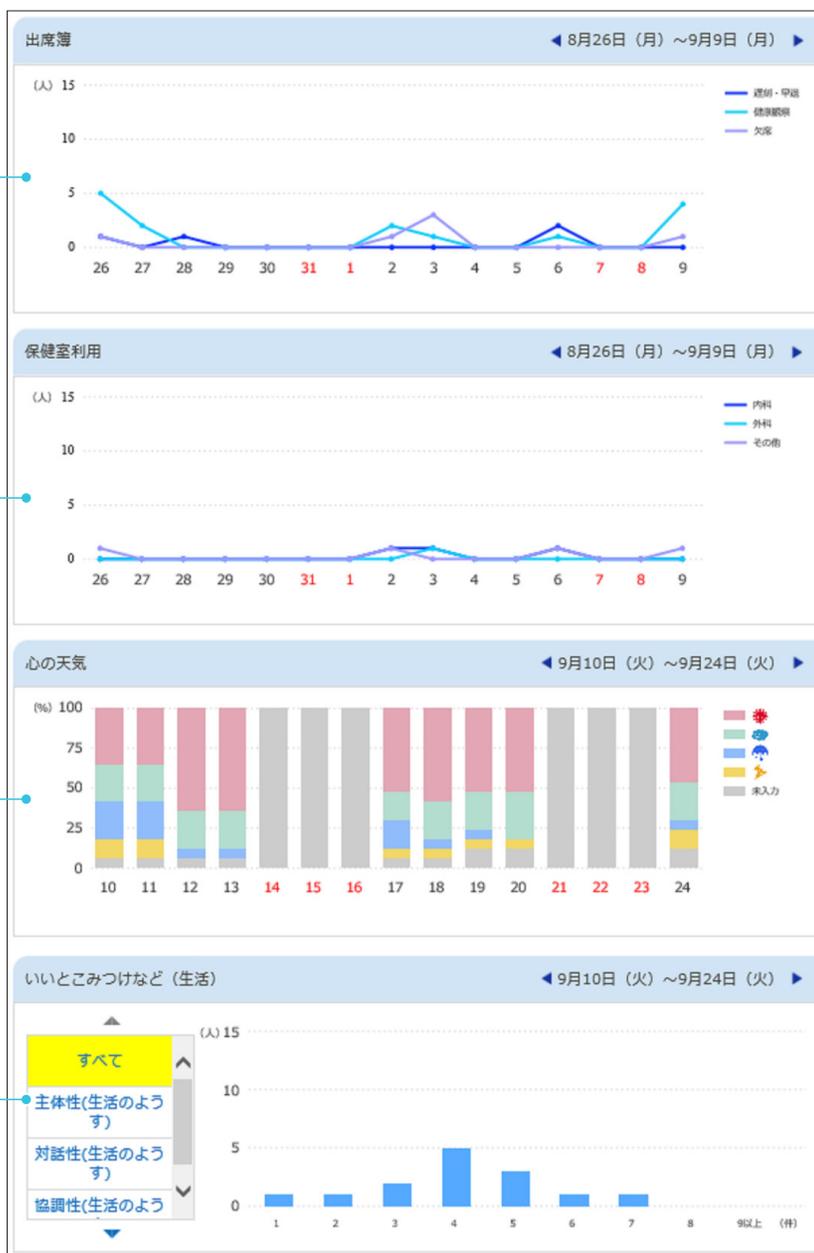
いいとこみつけの情報表示 ※最大10件表示

③ タイムライン

出席簿、心の天気、保健室利用(利用日時、内容)、共有 TOPIC(生活)、共有 TOPIC(学習)、いいとこみつけなど(学習)、いいとこみつけなど(生活) ※日ごとの学級新着/アラート表示



【生活のようす】学級の傾向を迅速に把握し、安心・安全な学校へ



心の天気

1

2

3

4

児童生徒の生活情報をグラフ表示し、学級を俯瞰する

「生活のようす」は、出席簿、保健室利用、心の天気、生活に関するいいとこみつけ入力状況の各サマリを一覧できるダッシュボード。出欠・健康状態と、心の天気にあわせて、保健室利用などの情報がグラフ化されており、学級の児童生徒の生活状況が一目でわかります。また、各項目は、該当年度内であれば、期間をさかのぼることができます。

生活面での問題解決がスムーズになるほか、かぜ様疾患やインフルエンザなどの欠席情報から早期に対策を講じることができます。

①出席簿

欠席、遅刻などの情報を折れ線グラフ表示 ※該当年度内

②保健室利用

利用人数を折れ線グラフ表示 ※該当年度内

③心の天気

積み上げ棒グラフで各天気を色分けで表示 ※該当年度内

④いいとこみつけなど

登録人数を件数別にグラフ表示 ※該当年度内

【学習のようす】 確かな学力の定着をエビデンスから確認



1 章
次世代の学びで
活用するシステム

2 章
「次世代の学校を支援する
「デジタルニューボード」

3 章
ICTを活用する
学校のようす

4 章
各実証校における
実践と効果

5 章
ICT活用の
ポイント

スタディログをグラフ化 得意・苦手や正答率・得点の変容が一目でわかる

「やるKey」「リアテンド」などの学習系システムによるデータを集計しグラフ表示。「観点別の評価」「いいとこみつけ(学習)」「評定」を関連づけながら一目で把握できます。「いいとこみつけ」において「主体性」「対話性」「協調性」の「タグづけ」を行うことで、必要な情報のみを抽出することが可能。また、学期ごとに期間をさかのぼることができるので、学級全体の学習状況、習熟度、問題のつまずきなどの早期発見にもつながり、評価と指導の一体化がより促進されます。

①単元テスト正答率と授業の感想

単元テストの正答率の情報を折れ線グラフ表示/授業アンケート結果を棒グラフ形式で表示

②観点別評価

評価ごとに人数を棒グラフ表示 ※学期/教科切替可

③いいとこみつけなど(学習)

登録人数を件数別にグラフ表示 ※該当年度内

④評定

評価ごとに人数を棒グラフ表示 ※学期切替可

ダッシュボードの機能③ 一個別の教育支援計画・個別の指導計画

子供たちへのきめ細かい個に応じた指導を支援

The screenshot displays the '個別指導の記録' (Individual Guidance Record) page in the EDUCOM Manager system. The interface includes a header with navigation tabs for '3年1組', '16番 山本 太郎', and '2019年度の記録'. The main content area is divided into several sections:

- 記入日:** 平成31年4月10日
- 記入者:** なにわ太郎
- 障がいの状況:** 手帳の有無、相談歴、発達検査の記録等。〇〇クリニックの〇〇医師より診断を受ける。
- 児童・生徒の実態:**
 - 学習面:** 文章題が苦手、自分のわからない課題を前にして、集中して取り組むことができない場面がある。
 - 行動面:** 友人に必要以上に踏み込みすぎて、人間関係をうまく築けない場面がある。
 - 社会性:** 学校内や学級内でのルールという意識が薄い。
 - その他:**
- 本人・保護者の願い:** 本人: 気持ちを落ち着けて、学校生活を送りたい。保護者: ...
- 支援の目標:** 友人や自分自身の気持ちに向き合えるよう、自ら考えるように促す
- 合理的配慮の観点項目と具体的な支援内容:**

項目	内容
①-1-2	算数 ノートを横書きからマス目のあるものを使用する 国語 漢字の学習においてワークシートやタブレット型端末のアプリケーションを活用する

This image shows a printed version of the individual guidance plan form. It contains a header with school and student information, followed by a table for recording guidance activities and a section for specific support content.

This image shows the digital version of the individual guidance plan form. It features a structured layout with input fields for dates, names, and detailed text areas for recording observations, goals, and specific support measures.

帳票出力も可能です

書類をデジタル化し効率的に作成できる

従来、ファイルで管理していた、支援が必要な児童生徒の「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を、デジタル化するとともに「児童生徒ボード」「学級ボード」にリンクし、掲示できる機能。年度ごとに登録・管理、共有することが可能です。登録された情報は、年度が替わっても引き継ぐことができます。継続する内容がある場合、転記機能により、書類作成の効率化が図れます。

個別指導の記録

3年1組 16番 山本 太郎 2019年度の記録 児童生徒ボード 学級ボード

元気小学校 なにわ 太郎 ログアウト

印刷

記入日 平成31年4月10日 記入者 なにわ太郎 担当者 なにわ太郎

年間の指導目標 年間の指導目標設定の理由

・苦手な課題の時も教室から出ずに取り組もうとすることができる。
・感情が高ぶったときに、教師の促しによりクールダウンできる

自分自身で考えて課題を解決するのが苦手。また自分が授業内容やグループでの話し合いの内容についていけなくなると、集中できなくなることが多くなる。

テーマ1	項目名	指導内容	個別の短期目標	指導の手立て	達成状況
	授業参加	授業中の格差縮小	教師が個別対応することで、差を減らし課題に取り組む	・座席を前にする ・肩に行動の手本になる児童を配置する	・言葉での説明が多くなると、落ちつきがなくなることがあった。

テーマ2	項目名	指導内容	個別の短期目標	指導の手立て	達成状況
	授業参加	文章題を理解できるようになる	文章題を表した図を見て問題を知ることができる	新しい単元のはじめに、解き方が理解できるように、可能な限り個別に指導する。	図示することにより理解しやすい模様。自信をもって取り組んでいるときもある。

テーマ3	項目名	指導内容	個別の短期目標	指導の手立て	達成状況
	対人関係	対人との距離感	対人との適切な距離を理解する	担任はほかの児童生徒との仲介を行い、児童生徒の悪言を代弁する	同じ趣味の友達とは楽しく過ごしている一方で、うまく対人関係を築けない場面もある。

テーマ4	項目名	指導内容	個別の短期目標	指導の手立て	達成状況

前の児童生徒 個別の指導計画 個別の教育支援計画 次の児童生徒

登録する項目はカスタマイズできます。
設定によっては、いいとこみつけに登録された内容との連携も可能

支援が必要な子供の情報共有と適切な支援

ダッシュボードから「個別指導の記録」に遷移すると、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を確認することができます。会議の場では、画面で情報共有、分析、検討することができるため、これまでのように会議資料の準備や廃棄処理の必要がなくなり、安全に情報管理することが可能です。また、児童生徒ボードより、日常のようすも確認しながら会議を進めることができるため、より適切な支援につなげることができます。

指導目標や支援内容、経過などの記録が年度ごとに蓄積されるため、児童生徒の成長、教育的ニーズに応じ、長期的な視点からの分析、対応が可能になります。担任の引継ぎ時にも、児童生徒の理解がスムーズになるほか、的確な指導計画を立てやすくなります。すべての教員にリアルタイムに情報共有されるので、支援が必要な児童生徒一人一人に対し、すべての教員の目で見守り支援することができます。

第3章 ICTを活用する学校のように

データを活用する教員の1日

「統合型校務支援システム」と「学習系システム」および、両システムのデータを連携させ、個々の児童生徒の状況や学びを可視化する「ダッシュボード」を活用すると、教員の生活は大きく変わります。

学校生活の様々なシーンでデータを活用する、大阪先生の1日をのぞいてみましょう。

8:00

8:30

[出勤]

出勤後、職員室でパソコンを開き「学級ボード」を眺めるのが毎日の習慣。タイムラインに表示される新着やアラート情報から、学級の状態や声掛けが必要な子供が一目でわかります。



[児童生徒とのコミュニケーション]

子供たちが先生の前でちょっとした会話をしながら「心の天気」を入力。子供たちの天気と顔を見ながら声掛けできるので、わずかな変化にも気づけるようになりました。



心の天気

[保護者からの連絡]

保護者から欠席の連絡。該当の児童の「児童生徒ボード」を確認すると、前日の午後から体調を崩していたことを確認。ていねいかつきめ細やかな保護者対応ができました。



[出欠/健康観察入力]

出欠、健康確認を教室からタブレット入力。不調を訴える児童生徒の情報は養護教諭に即時共有。



ICT導入およびデータ活用によって、まず、教員の時間の使い方は大きく変わります。本実証事業における実証校の多くでは、職員朝礼を廃止し、教員同士の申し送り事項や必要な連絡はすべて「統合型校務支援システム」上で行うようになりました。教員が早くから教室に移動し、教室から離れることなく、児童生徒と向き合う時間が増え、子供のように把握することで落ち着いて1日をスタートさせることができるようになっています。

また、朝の時間に児童生徒が「心の天気」を毎日入力することによって、日々の子供の気持ちの変化を見取り、その日に特に配慮すべき子供を把握したり、声掛けをするきっかけに活かしています。

これまで職員室でしか使用できなかった「統合型校務支援システム」は、「C4th ポータブル」の導入によって教室からも入力できるようになりました。「出欠/健康観察入力」がリアルタイムにできるようになったため、たとえばインフルエンザ流行時期には、学校全体の出欠状況がすぐに集計できるので対応を迅速に検討できます。児童生徒の「日常所見」や「いいとこみつけ」もタブレットから入力できるので、職員室に戻って入力する手間や、記入忘れのリスクを軽減。すべての教員がすべての児童生徒に対し「気づいた時にすぐに入力できる」ので、きめ細やかな情報が蓄積されやすくなります。児童生徒の学習面も大きな効果が期待できます。小学校向けデジタ

1章 次世代の学びで活用するシステム

2章 「ダッシュボード」で次世代の学校を支援する

3章 ICTを活用する学校のように

4章 各実証校における実践と効果

5章 ICT活用のポイント



大阪太郎先生

ICT 導入当初は操作に慣れずためらいもありましたが、次第に子供たちの意欲や学力が向上し、データ活用の効果を実感しています。現在では、ICT のある生活が当然のようになっています。



ダッシュボード



C4 th ポータブル

心の天気

心の天気



やる Key

Realtendant

リアテンドント

15:30

【朝学習】

タブレットを用いたデジタルドリル「やる Key」で、児童は自分の習熟度に合わせて学ぶ力を養います。「先生、トロフィー獲れたよ!」子供たちは楽しみながら問題を解いています。



【授業】

単元の仕上げにはデジタルドリル「やる Key」を活用。各児童の習熟度を示すヒートマップをタブレットで確認しながら、個に応じた指導を行います。



【授業前】

授業の前に「学級ボード」を確認。「今日は心の天気で晴れの子供が多いな」「前回の単元テストはいつもより正答率が低いな」など、クラスの状態をチェックしてから授業に臨みます。



【単元・定期テスト】

「リアテンドント」を用いて、学習の進度に合わせた自作教材でテストを実施。テスト終了後、解答用紙をスキャンすれば串刺し採点ができるのですぐに返却可能。生徒も忘れないうちに復習ができます。

Realtendant

ドリル「やる Key」は、児童の解答が分析され、個々の「わからない」や「つまずき」が可視化できます。また、ドリルに取り組むとコインやトロフィーがもらえるなど、子供たちが楽しんで取り組める工夫が詰め込まれているため、学びへの意欲が向上。「児童一人一人の理解度がわかり、授業設計や指導の判断材料に役立つ」「休み時間、放課後などにも友達同士で励まし合いながら積極的に取り組む姿が見られるようになった」などの声が聞かれます。

中学校向け「リアテンドント」は、テストの実施方法が大きく変化します。紙のテストを日常的に実施している場合でも、解答用紙をスキャンしてデータ化することで採点や分析がスムーズに。「採点にかかる時

間が大幅に短縮できた」「生徒全員の解答を一覧で見ることができ、どういう間違えが多いかすぐに把握できる」「テスト返却時、各問題の正答率を生徒たちに伝えたり、個別の声掛けができるようになった」など、教員たちのうれしい声が広がっています。

このように、ICT およびデータを活用することによって、学習・生活指導力の向上、児童生徒の心の理解、コミュニケーションの活性化、教員同士のスムーズな申し送りや意思疎通、業務時間と負担の軽減など、あらゆる面において効果がみられるでしょう。このような、教員の1日の過ごし方が今後の教育現場のスタンダードとなり、学校全体の教育の質の向上を図るツールとして今後欠かせないものとなります。



ダッシュボード



C4th ポータブル

心の天気 心の天気

やるKey やるKey

Realtendant リアテンダント

放課後



【放課後の補習】

単元テストの結果、誤答情報などから、個々の生徒の弱みを分析。個々のつまずきや個に応じた指導ができます。

Realtendant



【教員育成】

「学級ボード」「児童生徒ボード」で、学級や各児童生徒の状況を確認しながら、ベテラン教員が若手教員にアドバイス。教員同士の経験や知見の伝承、各事案における早期問題の発見・早期対応に役立っています。



【委員会、クラブ活動、部活動】

委員会活動、クラブ活動等とおして接する担任以外の先生も、子供たちのようすをその場で入力することができます。



データを活用することで得られる効果

学習指導の充実

- ・学習面における指導の充実（つまずきの早期発見と個に応じた指導／教科・学年・校種をまたいだ連続性のある指導／校内の学習状況の把握による適切な対応）
- ・具体的な指導状況に基づく振り返り（多様な情報による適正な評価／自分の学びの振り返り）
- ・具体的な指導情報に基づく授業改善（指導状況の把握による授業改善／指導状況の共有による授業／実態を踏まえた教員への指導・助言や支援）

生徒指導の充実

- ・生活面における指導の充実（生活面の状況把握と個に応じた指導／学校全体での情報共有に組織的な支援／生活面で抱える問題の早期発見と適切な対応）

保護者への情報提供

- ・面談などの際に、一元的に可視化した児童生徒の情報を保護者に示すことで、保護者にとってより納得性、具体性のある説明を行うことができる。

学校運営の充実

- ・客観的な指標に基づく教育施策の実施（学校運営に資する情報の分析／教育施策に資する情報の分析／実績を踏まえた学校への指導助言）

データを活用する教員

児童生徒理解

「児童生徒ボード」には顔写真がついていて担任外の先生も児童生徒の判別が一目瞭然。必要な情報がすべて集約されているほか、先輩教員の指導記録も記載されているので、子供の理解の深化や充実につながります。また、児童理解研修会や特別支援研修会、生活指導部会などで教育方針を決める際の参考にも役立ちます。



保健室利用

不調の原因がわからないまま保健室を利用する児童生徒が多かったために「児童生徒ボード」に集約された情報から児童生徒の不調の原因を多角的に分析。時間割との照合や教員からのヒアリング結果などから、体育などの特定教科の授業が原因であることが判明。授業から逃避しがちな状況や対応法の共有をとおして、指導につなげることができます。



道徳評価

「日常所見」機能を活用し、道徳の評価を記入。道徳関連のタグを付与して登録しておくことで、必要な時に抽出し、ポートフォリオの資料として活用できます。その場でタブレット入力ができるので効率的。通知表や指導要録の評価もスムーズになります。

引き継ぎ

進級により、学級の担任が変更となった際に、旧担任から新任へ学級ボードと児童生徒ボードを見せながらクラスの状況を説明。顔写真付きで、児童生徒の情報がまとまっているので、情報把握が的確にでき、信頼関係の構築につながります。



保護者説明

学期ごとに実施している保護者懇談会では、事前に「児童生徒ボード」を確認。「日常所見」や「デジタルドリル」の結果など、様々な情報から根拠のある説明が可能となります。先生がきめ細かく指導していることも保護者に伝わりやすく、信頼関係の構築にも役立ちます。

SC/SSW

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと児童生徒ボードを活用して情報共有することで、子供たちへの支援が的確に進められます。

学級運営

ある学級では、「心の天気」の学級情報を活用し「どうしたらクラスみんなが晴になるか？」児童に考えさせる取り組み「心の天気 快晴プロジェクト」を実施。一日一善という考えが出るなど、クラス全体で良くしていこうという雰囲気を感じます。児童の自己指導力が芽生え、主体的・対話的な学級が実現に役立ちます。

